

院長からのメッセージ



パラリンピックも9月5日で閉会になります。今年はパラリンピックの「パラ」の意味は何か、というクイズがあちこちで見られました。もともとは医学用語のParaplegia：パラプレギア（両足の麻痺）の方が参加するスポーツ大会だったのでパラリンピックと言われたのですが、障害者全般のスポーツ大会になったのでParallel:パラレル（並列、類似など）のパラという解釈に変更したのが1988年からとのことでした。

「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」という言葉は、日本のパラスポーツの父と言われる中村裕博士（整形外科医）が留学先の英国で学んだことです。東京大会の熱戦を見て、生きる姿勢を学ばせてもらいました。コロナ禍での子供達の見学について、賛否両論ありましたが、確かに子供たちがパラリンピックを観戦することに教育的効果を期待する方の気持ちもよく理解できます。あながない、これがない、と嘆くのではなく、残された機能を伸ばそうとすることは、人生訓そのものです。

闘病にもつながることですので、医療者と患者さんとの共通認識として位置付けたいと思います。

感染対策チーム（ICT）



ICT（感染対策チーム）とはインフェクションコントロールチーム（Infection Control Team）の略称で、院内で起こるさまざまな感染症から患者・家族、職員の安全を守るために活動を行う医療チームです。当院のICTは、医師(ICD：インフェクションコントロールドクター)3名、感染管理認定看護師(ICN)2名、薬剤師2名、臨床検査技師2名、事務1名で活動し、各立場から専門的検討・対策を練り実行しています。現在は新型コロナウイルスに対する感染対策が中心です。

感染予防策としてのマスク・手袋・長袖ガウンなどはただ装着すればよいというわけではなく、適切なタイミングで適切に着脱しなければなりません。また、アルコールによる手指消毒の徹底、環境整備など、これまで行ってきた感染対策が本当に適切かどうかを再確認する機会となりました。新型コロナウイルス感染症においては、市民の皆様やCOVID19対応チームを中心とする職員の協力のもとで、幸いにもこれまで院内クラスター発生もなく、対応できる感染対策を確実に実施することができ、感謝申し上げます。まだまだ、対策は続きますが、これからもご協力よろしくお願い致します。

COVID19対応チーム(氏名・写真は割愛)

当院では、一般病棟とは離れた病棟に新型コロナウイルス感染症の患者用に20床確保(県内でも有数)し、状況により20名以上を収容することもあります。また、カクテル療法の一泊入院や、自宅待機患者の急変・入院にいつでも対応できるように体制を整えています。看護師15名、看護補助者1名、クラーク1名を1看護単位とし、日勤は看護師5～6名、夜勤2名で対応しています。院内感染の予防にゾーニング(危険・安全区域の区画割)や感染予防策の徹底は当然ですが、このCOVID19対応チームは一般外来・入院診療への影響を避けるため、新型コロナウイルス感染症診療に専念しています。以下、当事者のインタビューです。

看護師A：コロナ感染症の患者様が退院の時に病室から出て深呼吸した姿が忘れられません。患者様にとって、個室隔離され過ごされる入院生活のストレスはとて強いことを実感しています。少しでも安心してストレスフリーに過ごせる療養環境について日々検討しています

看護師B：コロナ感染症という疾患での入院は共通していますが、その背景は様々です。病気の治療だけでなく、心理的・社会的側面へのケア、ご家族のケア、退院後の生活などについても、カンファレンスで検討し実践しています。「まさか自分が」という思いや「周囲に迷惑をかけてしまった」という自責の思いを抱えて入院される患者様は多く見られます。医療者も感染対策の厳守・徹底の中、緊張感や不安を抱えながら、限られた時間・制限された環境の中で、患者様のために自分たちができることは何かをカンファレンス(情報共有)により、チームで検討を重ね、看護ケアを行っています。いつまで続くのかという先の見えない状況ですが、チーム一丸となり患者様が安心して入院生活を送れるよう看護していきたいと思っています。

COVID19対応チームを影で支えている職員

現在、事務職員・看護職員は通常業務以外に下記のような業務も行いコロナ診療を支えています。

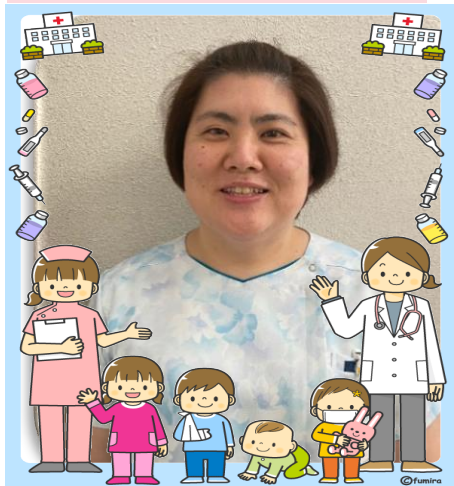
- ①PCR検査：電子カルテに患者登録・検査入力(事務職1-2名)
- ②PCR検査：ドライブスルーの車両誘導(事務職2～4名)
検体採取(看護師3-4名)
- ③玄関対応：午前2名、午後1名(事務職)
- ④面会対応：1～2名(看護師、看護補助者、医療クラーク)



認定看護師・特定医療行為認定看護師のご紹介

当院には、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有する者として、看護協会が認定した、11分野15名の認定看護師がおります。また38種類の医療行為について、医師の具体的な指示が出る前に自らで行える特定行為看護師が3名おります。
今回は鹿児島県に実働1名しかいない**小児救急看護認定看護師**をご紹介します。

小児救急看護認定看護師 有村聡子



小児救急看護認定看護師の役割(鹿児島県に実働1名)

救急医療の現場で、子どもの身体的な状況を判断し、緊急度を判断します。また、家族の育児不安への対応、子ども虐待への対応、子どもの事故予防の指導、家庭における初期指導（ホームケア）などの役割があります。

有村聡子さんが小児救急看護認定看護師目指したきっかけ

夜間に受診した患児が表していた「きつい」というサインを的確に捉えられず、つらい思いをさせてしまった事例があり、もっと小児救急看護を学びたいと思い、教育課程に入学しました。

有村聡子さんの今後の抱負

- ・1次・2次を含めた救急の現場で、子どもが表しているサインを的確に捉え、成長発達段階を踏まえてアセスメントし、質の高い看護を行う事。
- ・病気と闘う患児と保護者の応援団でいる事。
- ・子どもの権利に基づき、子どもの最善の利益を第一に考え、院内だけではなく、地域の社会資源となれるように自己研鑽してゆきます。

市民・企業の方々からの暖かいご支援ありがとうございます

日付	提供者(敬称略)	内容	日付	提供者(敬称略)	内容
2020年			5/20	久木迫	ウイルス対策セット
4/11	一市民	激励文書	5/29	フードバンク	塩飴
4	自動車学校職員	激励葉書	6/2	フードバンク	県酪農協牛乳
4/21	前田静子	サージカルマスク	6/8	フードバンク	県酪農協牛乳
4/22	フードバンク	飲料水	6/24	本坊酒造	高濃度エタノール
4/27	大英建設	サージカルマスク	6/24	薩摩酒造	高濃度エタノール
4/30	ローソン国分駅前	サージカルマスク	12/7	フードバンク	大根
5/7	ソレイジア・ファーム	サージカルマスク	12/9	元職員	マスク収納ケース
5/12	吉満内科	N95マスク	2021年		
5/13	スポーツクラブエルグ	クリーンマスク	2/2	伊藤園	飲料水(お茶)
5/14	京セラ	フェイスシールド	5/25	eワーカーズ	飲料水
5/15	県茶業会議所	飲料水	5/31	ネスレ日本	飲料水
5/15	伊藤園	お茶Tバック	6/2	老人クラブ	タオル
5/19	コカ・コーラ	飲料水	7/29	フードバンク	タオル



フードバンクお助けマン
霧島 来院 7/29

新病院建設進行中

現在実施設計(ECI方式)に向けて工事会社の選定作業中で、10月には決定予定です。

職員募集

看護師、看護助手各2-3名、薬剤師1名、医療クラーク2-3名を募集中('21年9月1日現在)
詳しくは病院HPをご覧くださいか、事務長、事務次長、または総務課課長補佐にご相談下さい
☎ 0995-42-1171, FAX 0995-42-2158

編集後記

「艱難汝を玉にす」

世界史に残るようなコロナ禍の中にあって、公的病院としての当院の真価が問われていると同時に、診療の洗練化がなされる時かもしれません。